

ジンベエザメを搬入・搬出し、 生態解明のための回遊経路調査を開始します。

海遊館（大阪市港区）は、2024年10月2日（水）夜間に、「太平洋」水槽で飼育展示しているジンベエザメ「愛称：海（オス、全長5.9m）」を搬出し、新たに「大阪海遊館 海洋生物研究所いぶりセンター（高知県土佐清水市、以下 以布利センター）」からジンベエザメ1頭（オス、全長4.7m）を搬入します。一般公開は、搬入翌日の10月3日（木）より開始します。

搬入、搬出に伴うジンベエザメの長距離輸送は、特製の輸送容器と大型トレーラーを用いた陸上輸送で実施する他、搬出する「海」は以布利センターまで輸送し健康チェックを行った後、記録装置（データロガー）を装着し、故郷である太平洋へ放流することで、自然の海での回遊経路の調査を開始します。

「海」は、2019年9月1日に高知県室戸市の定置網に入網し、以布利センターでの飼育を経て、同年10月18日に海遊館「太平洋」水槽へ搬入しました。以降、2014年より飼育展示しているジンベエザメ「愛称：遊（メス、全長6.2m）」とともに、2頭展示を行っています。今回の放流では、調査期間を1ヶ月に設定した記録装置を取り付け、調査する予定です。使用する記録装置は、2022年に実施したクラウドファンディング（2022年11月24日報道発表済）で皆様にご支援いただいた支援金から購入したもので、クラウドファンディングで購入した記録装置を用いての回遊経路調査は今回で3回目となります。



新たに海遊館に搬入するジンベエザメは、2024年7月23日に高知県土佐清水市の定置網に入網し、翌日に以布利センターに搬入しました。以布利センターでは餌付けや健康管理に伴うトレーニング、血液検査を行っており、海遊館搬入後は健康管理、生態研究を継続しながら、「遊」とともに2頭展示を行います。



2013年に実施したジンベエザメ搬入の様子

海遊館は、研究のフィールドを自然の海と飼育下の両方におくことで、ジンベエザメの生態解明、保全活動に貢献するとともに、ジンベエザメの展示を通して自然や生物への興味・感動を育み続けてまいります。

【取材・素材提供について】

取材・素材提供をご希望の際は、下記までご連絡ください。

- ※天候や交通状況によりスケジュールが変更になる場合がございます。
- ※作業の安全上、撮影場所を限定させていただく場合がございます。
- ※海上での放流作業は撮影できません。

海遊館 広報・宣伝チーム (06-6576-5529)

【 ジンベエザメについて 】

■英名 : Whale shark

■学名 : *Rhincodon typus*

温帯から熱帯の沿岸および外洋に生息する世界最大の魚類。日本近海では、初夏から秋にかけて現れる。背中に散在する白色の斑点が特徴で、主に小型の甲殻類などのプランクトンを食べる。最大 10~12m、稀にさらに大きく成長すると考えられている。海遊館では 1990 年の開館以来、ジンベエザメの飼育展示を行っている。

【 搬出個体について 】

■愛称 : かい海

■性別 : オス

■全長 : 5.9m

■推定体重 : 1,550 kg

■推定年齢 : 9~10 歳

■搬入日 : 以布利センター…2019 年 9 月 3 日

海遊館…2019 年 10 月 18 日

【 搬入個体について 】

■性別 : オス

■全長 : 4.7m

■推定体重 : 700 kg

■推定年齢 : 7~8 歳

■搬入日 : 以布利センター…2024 年 7 月 24 日

海遊館…2024 年 10 月 2 日閉館後（予定）

※搬入翌日の 10 月 3 日より一般公開します。



【 その他海遊館飼育展示個体について 】

■愛称 : ゆう遊

■性別 : メス

■全長 : 6.2m

■推定体重 : 1,800 kg

■推定年齢 : 17~18 歳

■搬入日 : 以布利センター…2014 年 8 月 6 日

海遊館…2014 年 8 月 24 日

【 「大阪海遊館 海洋生物研究所^{いぶり}以布利センター」について 】

1997 年 9 月 24 日、高知県土佐清水市に開設。水量 1,600 m³の「第一水槽」と水量 3,300 m³「第二水槽」を備える。海遊館と、同館がプロデュースする「NIFREL（大阪府吹田市）」で飼育展示する生物の収集を担う他、ジンベエザメを中心に海洋生物の生態解明と健康管理、ならびに足摺岬周辺海域における海洋生物の基礎的研究を行っており、「イブリカマス」「カイユウセンニンフグ」の日本初記録や、「イトマキエイ」「タイワンイトマキエイ」の飼育に世界で初めて成功するなどの実績を持つ。

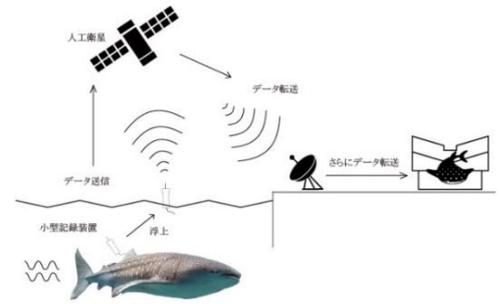


【 バイオロギング について 】

バイオロギング (Bio-logging) とは、生き物に小型の記録装置 (データロガー) を付けて、その生き物 (Bio) が自ら記録 (logging) した行動を解析する研究手法です。近年、様々な生き物を対象に研究が進み、その成果が世界中で注目されています。

海遊館では、2011年より北海道大学とジンベエザメの回遊経路を共同研究しています。記録装置は設定した調査期間が経つとジンベエザメの体から自動的に外れ、人工衛星を経由して記録データが送信されます。記録項目は、回遊経路 (位置) と遊泳水深、水温です。

2022年には本研究のさらなる発展を目指したクラウドファンディングを実施し、1000万円を超えるご支援をいただきました。このご支援金で記録装置を複数台購入し、2023年に2頭のジンベエザメでそれぞれ1ヶ月間の調査を実施、記録データの取得に成功しています (現在データ解析中)。今回はそれらに続く、クラウドファンディングのご支援金で購入した記録装置を用いて実施する3回目の調査となります。



【 搬入出スケジュールについて 】

日時	搬入個体	「海」 (搬出個体)
10/2 7:00	以布利センターにて取り上げ開始	
8:00	輸送容器に積み込み	
9:00	以布利センターを出発	
19:00	海遊館に到着、健康チェック	
20:00		海遊館「太平洋」水槽の水面に設置した専用シート内に収容
	「太平洋」水槽にリリース	
23:00		輸送容器に積み込み 海遊館を出発
10/3 8:30		以布利センターに到着、健康チェック
9:30		沖合の放流ポイントに向けて船で出発
10:30		記録装置を装着し、放流